

【研究課題の名称】

口腔ケアアセスメントツール（OHAT）を用いた口腔ケアの効果

【研究の目的及び意義】

A病棟は52床の救急・総合診療科病棟であり、誤嚥性肺炎と診断され食事介助を要している患者は一部介助・全介助を含め、病棟全体の62%を示していた。このように、A病棟に入院している患者の多くは、食事介助が必要で、同時に、口腔ケアが必要不可欠な状態であることが分かっており、現在では言語聴覚士が食事の介入をすることが多く、日頃から口腔ケアの不十分さが指摘されていた。2020年秋に、言語聴覚士が看護師に行ったアンケート調査から、患者の口腔内の状態に合わせた口腔ケア用具の選択ができていない、2年目以降で全体の3割近くが多忙を理由に口腔ケアが十分に出来ていないという結果であった。実際に、ラウンド時に多くの患者の口腔内汚染が著明な状態であることが確認されており、ベッドサイドには口腔ケア用品が適正に選択され準備されていなかった。具体的には、残歯がある患者に歯ブラシが準備されておらず、口腔粘膜が脆弱している患者にスポンジブラシのみでケアをしている状況が見られた。このことから、口腔ケアは看護師個人の能力・技術・知識に左右される部分が多く、日常の口腔ケアも充分であるとは言えない状況であった。

このことから、今回、口腔ケアに関する問題点を明らかにした上で、口腔ケアに関する基礎知識及び実践方法について口腔ケア学習会を開催し、Oral Health Assessment Tool (OHAT)を説明・配布しOHATを使用した口腔ケアを開始することで、病棟スタッフの口腔ケアに対する知識と技術が向上し、OHATの使用を継続することにより、看護師の口腔ケア技術の質を保ち、継続した技術提供が可能となるのではないかと考えた。そこで、本研究は、口腔ケアアセスメントツール（OHAT）を用いた口腔ケアの効果을明らかにすることを目的とする。

【研究対象者の選定方針】

令和3年4月1日～令和3年5月31日までA病棟に入院中の食事に介助を要する患者（一部介助、全介助） 約40～60名

【研究予定期間】

承認日（西暦2021年5月26日）から西暦2021年10月31日